

議 事 録

会 議 の 名 称	第6回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開 催 日 時	平成25年1月29 (火) 14時00分～
開 催 場 所	小川総合支所 3階 大会議室
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <p>水本徳明 戸田見成 萩原 茂 小埜正美 福田智彦 小仁所 浩 西村浩一 鈴木美樹 中島 淨 沼田マサ 稲田 弘</p> <p>【欠席委員】</p> <p>村田春男 菊地 稔 藤田恵弘 飯島利武 星野広幸 立原幸子 邊見亜津子 竹内昌信</p> <p>【教育委員】</p> <p>中村三喜 沼田 新 本田仁子 加瀬博正</p> <p>【事務局】</p> <p>我妻智光 戸塚俊宏 成井修也 佐々木 浩 真家 厚 菅谷清美 大枝江梨子</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的方策の内容について ・ その他
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)
記 録 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 1 人)

【協議】

(1) 具体的方策の内容について

- 委員長 私事になるが、3月で現在の大学を退職し、4月から関西の大学に異動することになった。よって、このまま委員長を続けていくのは難しい。ご迷惑をおかけして大変申し訳ない。
- 今後の進め方について、提案したい。
- 3月までに実施計画を完成させるのは、短期間であるため難しい。そこで、3月に中間答申として、この委員会での意見をまとめたい。内容としては、適正化について地域で検討していく仕組みやスケジュール等、今後の進め方を答申したいと考えている。その答申を来年度以降に引き継ぐという形を考えた。
- 意見をいただきたい。
- 委員 地域での協議会とは、説明会と同じようなものなのか。
- 委員長 事務局が一方的に説明するのではなく、地域ごとに組織を作って、検討・議論してもらいたい。
- 委員 学校ごとに委員を決めて、我々もそこに参加するのか。
- 委員長 地区ごとに協議してもらい、そこで出た意見をこの検討委員会に持ち寄るといった方がいいのではないかと思う。
- 委員 全ての小学校区で協議会を組織するのか。地域により、意識の違いがあるが・・・。
- 委員 幅広い年代から委員を構成するのか。
- 委員長 委員の構成についても、この委員会で決めるべきだと思う。
- 委員 現在子どもが学校に通っている親や、今後学校にあがる親の意見がほしい。
- 委員 地域ごとに協議会を組織するとして、そこで何を議論するのか。漠然と意見を出してもらっても話が進まない。説明会を開いて、意見はもらっているのだから、それを精査し、このような形に持っていきたいという原案を示して、それについて協議してもらおうという形がよいと思う。統合するかしないかというのがスタートだと、話がまとまらず、1つの方向に進んでいかないのではないか。
- 委員 住民説明会では、児童生徒数の推移を示す資料を出さなかった。出したほうが住民は将来を考えることができたのではないか。
- 委員 玉里東小学校は、反対意見が多い。しかし、何人かに会って話をしたが、統廃合を納得してくれた。子どもが減少するという所から話をしていくと、住民は納得する。説明する努力をすべきである。新しく協議会を作ったら、また混乱するのではないか。より時間がかかってしまう。無駄な時間になる可能性もある。私は、きちんと説明をすれば、住民を説得できると考えている。
- 委員 今の意見のように、具体的に説明をしないと、納得してもらえないと思う。
- 委員 私は、基本方針を基に話をした。
- 委員 玉里東小学校では、平成31年度に、入学者が1名になる予定である。このような現状

を提示すれば、納得してくれるのではないか。

委員

東小学校区住民の考えにそぐわない提案が出て、それに対しての検討ができる。何もないと、話し合いに参加する人数が集まらないのではないか。

現在、東小学校区では、統廃合を想定して話し合いをしようという意見が出ている。子どもに一番よいことを提示してもらったほうが、話し合いがしやすい。

今までの適正化委員会で配布された資料は、全てPTAに提出している。反対にしる賛成にしる、話し合いのたたき台があったほうがよい。

委員長

説明会を実施したことで、話し合う雰囲気が出てきたということだろうと思う。他に何かあるか。

委員

短期間であれ、この委員会としての具体的な方針を出すべきである。最終的な決定には、まだまだ時間がかかるが、具体案を作成できるだけの材料は揃っているので、3月までには十分答申できると思う。

委員

教育委員会では、どの学校とどの学校が統合する、ということと言わないのか。

事務局

それについては、適正化検討委員会で示していただくという認識である。

この検討委員会は、白紙から議論していただくというのがスタートであった。教育委員会としては、議論の際に必要なデータを提供する。こちらからは、どの学校が統廃合するというたたき台は示さずに、みなさまにその原案を作っていただきたい。

委員

住民は、児童生徒数推移のデータを見れば、統廃合が必要だと納得するのではないか。将来のことを考えた説明の仕方をすれば、絶対に納得してくれるはずである。

委員長

今までの意見をまとめると、この委員会で原案を作り、案を示した上で、各地域で協議していただく、ということである。

原案を作成し、それを答申するといった形で今年度を終了するか、それとも、実施計画まで作成するか、いかがか。

事務局としては、どのように考えているか。

事務局

実施計画の中身については、まずは、今後のスケジュールや統廃合対象地域を示していただきたい。適正化のスタート時期、どの地域からどの順番で、など細かい議論も必要になってくることからすると、3月までにまとめるのは無理である。

また、事務局としては、地域の方への説明不足を認識している。現役世代の保護者にターゲットを絞った形での説明会、硬くならないような形で地域の方と話しができれば、前回の説明会とは違った形で話し合いができると思う。より具体的なデータ、今示せる図面を基に、より分かりやすい資料を示して説明するために、一定の期間をいただきたい。3月までという気持ちも分かるが、委員会の継続をしていただき、詳細な作業をお願いしたい。

委員長

事務局の意向としては、中間的な段階で、この委員会としての素案を示して、その後、それをふまえて、実施計画を作るところまで、この委員会で検討してほしいということだが、これについて何か意見あるか。

委員	前回の説明では「具体的なものがなければ、意見も言えない」という意見がたくさんあったのだから、具体的な素案ができれば、それを住民に報告して、もう 1 度意見をもらうというステップがあったほうがよい。
委員	スケジュールさえも教育委員会では方針を持たないのか。
事務局	それも含めて、検討委員会で議論していただきたい。
委員	ある程度の案をこの委員会で決めないと、話が進まない。
委員	P T A等に話をして。時間をかけて。そうしていくことで、住民は理解してくれる。
委員	地域が反対するから、統廃合はやらない、というような無責任な考えではいけない。教育委員会で方向性を決めたら、それを曲げないでほしい。方向性が決まれば、うまく進む。
委員	同意見である。住民が反対したら、統廃合の話はなくなる、という捉え方をしている方もいた。そんな話で学校適正化がスタートしたわけではない。子どもたちの将来の教育環境をどうにかしたいという思いからスタートしているのだから、教育委員会はそのような考えではいけない。
委員長	ここで中間的な答申を作って、それを教育委員会の方針にしてもらい、進めてもらうということだと思う。
委員長	今までの意見にあったように、3月までに、素案と今後の進め方について答申を作るということよろしいか。3月にその答申を示した上で、その後、答申について各地区で協議してもらおう。さらに、この検討委員会では、具体的な実施計画について話し合うという流れで進めていく。
委員	では、素案について具体的な意見をいただきたい。
事務局	その前に、事務局から配布資料についての説明をいただきたい。 ○【資料2】についての説明 住基情報を基に、算出したデータである。このデータを見ると、平成31年度から入学者数が激減していくのは明らかである。 ○【資料3】についての説明 学級数については、特別支援学級を含めた数字である。()内の数字が特別支援学級数なので、その数を引けば、普通学級数となる。 また、緑については、基本方針で示した「学年2学級以上」を満たしている学校である。赤については、それを満たしていない学校である。それに対応した地図というのが、【資料4】である。
委員	学級数については、現行の数(1学級35名)で算出しているのか。
事務局	そうです。
委員長	単に「学年2学級以上」という基本方針の条件を満たしているから、よいということ

ではなく、通学区域・通学距離のことも含めて考えなければならない。

委員

この資料は、住民に提示するのか。

委員

色分けの地図は示さなくてよいのではないか。

委員

色分けはいらないが、地図は必要である。

委員

玉里地区について、説明の仕方を考えた。玉里中学校では基本方針の基準を下回っている。基本方針の基準に従うと、小川南中と統合する可能性があるという説明をする。そして、中学校がなくなることについてどう思うか、問う。小学校も1校しか残らなくなる、と伝える。小中学校が1つしかなくなってしまうが、それでもいいのかという話をする。あくまでもシミュレーションだが。そのような状況で何を考えるか、地域に学校を残していくためには、小中一貫だ。小中一貫校であれば、小学校も中学校も残る、という説明をする。あくまでもシミュレーションだが。

反対するのは高齢者である。自分の郷愁を優先するのではなく、子どもの将来を考えなさいと言うと、だいたい納得する。

委員

小中一貫校の良し悪しを資料で提供してはどうか。

委員

メリット・デメリットをきちんと提示した上で話をしていくと、話がまとめるように思う。

複式学級はデメリットしかない。突き詰めた時に、何が良くて悪いのかをはっきりさせれば見えてくる。玉里東小学校が厳しい状況にあるのは、目に見えている。きめ細やかな指導等、小規模校のよさを保障すれば、住民も納得してくれるのではないか。

委員

玉里東小の保護者の中には、1人になっても学校を残してほしい、という意見がある。複式学級がよくないとは思っていない。親は「東小はまとまりがあるから、やっていける」と思っている。それが良い所だとは思っているが・・・。

委員

少人数では、人間関係の学習ができない、という話をするのがよい。勉強だけできてもだめ。人格形成の面から言うと、あまりに小さい集団の中で育つと、ひ弱で、小さい、世の中に出て活動的になれない、そういう面もきちんと説明すると、だいたいは納得してくれる。総合的にいろいろな説明をしないと、住民は納得しない。

委員

そのような説明をされても、自分達は実感していないし、自分に自信を持っているから、納得してもらえない。自分達で考えていけば、少しずつ分かっていくところもあるが。

委員

下吉影小学校の保護者もそのような感じであった。「小規模だから、手をかけられる、子どもたちは健やかに育つ」という思いがある。しかし、子どもの立場で考えた時、1人2人の中で学習していくことを子どもたちが望むか。「1人でも大丈夫」というのは大人の論理である。勉強については、細かく指導ができ、学力はつくが、社会性と自立については、先生がいつもつきっきり、同年代でもまれる事も少ない中で育った場合にどうなのか。学校は集団での学び合いである。それが機能しない人数になったら、子どものためにそれでよいのか考えていかねばならない。地域の方の気持ちも考えつ

つ、この委員会では素案を出して、意見をもらうという形がいいと思う。

委員

ここで配られる資料については、全て出すべき。

委員長

橘小学校は空港の影響で、騒音への批判がある。野田小、上吉影小や下吉影小との調整が必要になる。

委員

基本方針では具体的な数も出しているので、それに沿って、どんどん進んでいかないと進まない。小さい学校では、部活動が限られるという問題もあるので、中学校の統廃合についても、同時進行で進めていくべきである。

委員

橘小学校では、小川北中のほうが近いのに、小川南中に通っている子どももいる。小学校の統廃合を考える際には、通学区域の見直しについても考えるべきである。

委員

以前、子どもの成長にとって、地域の結びつきが大事という話があった。地域は、学校にとって、どう大切なのか。また、「今日からこちらの学校に通ってね」と言うことは、可能なのか。

委員

適正化によって、新たに地区を線引きした時に、しばらくの間子どもたちは、旧の線引きで元の学校に通うことになると思う。実際に、つくばもそのような形をとっている。しかし、何年後かには、新しく線引きされた学校に通うことになる。適正化を進めていく上では、新しい地域を作っていくという覚悟が必要である。新しい学校にどれだけ思い入れを持てるか、努力が必要になる。

委員

野田にはコミュニティーがあるが、どのような線引きをするのか・・・。

委員

難しくても、どこかでは区切りをつけなければならない。

委員長

1つの地域を分割してしまうと、元の地区の行事やコミュニティーとしてのまとまりも分断することになり、地域のまとまりと学校のまとまりが合わずに、難しいかもしれない。

委員

学校適正化についての結論が出ていない中で、学校の改築を進めてしまってよいのか。

事務局

学校の改築については、耐震調査に基づき、順番を決め、整備を進めている。学校適正化と耐震化とは、線引きをして考えている。しかし、新築してすぐに廃校にすることは難しいので、一定の時間差をつけて論ずる地域が出てくる可能性はある。

委員

ということは、早く方針を定める必要がある。それが決まらないうちに、学校建築が先走るのはよくない。

委員長

学校改築と適正化に矛盾が生じないように、早めに素案を出さなければならない。

今後のスケジュールについては、いかがか。

委員

来年度末までに、実施計画を答申できるのではないかと思う。

委員

同意見です。

委員

説明会では、参加者が少ない地域があったが、協議会には集まるのか。

委員

P T A等の集まりを利用して、協議会を開いてはどうか。説明会と同じやり方では、

集まらない。

委員長

PTA や行政区単位の組織で協議会を構成するか。それとも共通の枠組みを決め、組織を作ってもらるか、どうするのがよいか。どういう形にすれば、議論してもらえるかということだと思うが・・・。

あるいは、こういうところでは意見を聞きます、ということを経済答申に盛り込んでおくのも、いいかもしれない。

協議会の構成・検討の仕方について意見をいただきたい。

委員

竹原小学校改築検討委員会は、議員、区会の代表者、PTA、有識者で組織されている。バランスを考えれば、同じような形がいいのではないか。PTA ばかりで構成するのはよくない。

委員長

組織の作り方についても、方針を示していきたい。

今回は、今回の意見を踏まえた経済答申の骨子を示したいと思う。また、今日あまり議論できなかった玉里地区以外の地区をつめて、経済答申の内容を作っていきたい。次回までに、どのような学校づくりが考えられるか、を考えてきていただければありがたい。次回、経済答申のたたき台ができるようにしたい。

委員

美野里地区については、一見問題ないように思うが、通学区域は検討する必要がある。この機会に、検討していただきたい。

委員長

全ての小学校区で協議会を組織し、学校の在り方を議論してほしいと考えている。そのような形になる経済答申としたい。

事務局

今後の委員会の開催予定は、2月26日(火)、3月26日(火)いずれも14時、大会議室での開催である。

15:45 終了